



Japanese Committee of International Council for Small Business

ICSB 日本委員会 (JICSB) メールマガジン

第 2 号 2013 年 11 月 5 日

目次

1. 委員長挨拶
2. ACSB (Asia Council for Small Business) カンファランス
3. JSBM (Journal of Small Business Management) 51(4)概要
4. 編集後記



■ 1. 委員長挨拶



ACSB 第 1 回大会を終えて

私の ICSB とのかかわりは、2006 年の ICSB メルボルン大会が初めてでした。それまで、日本の中小企業研究者と国際組織のかかわりの場は主に ISBC 国際中小企業会議であり、私自身も、1986 年の ISBC ロンドン大会はじめ、何度かの機会に参加、あるいは ISBCJ 日本中小企業国際協議会からの派遣を頂いております。ソウルに初めて来たのも、1990 年の ISBC 第 17 回大会のためでした。しかし、世界の学界的には ICSB の方が本流にも感じられる、また ISBC の方は近年開催に困難を来している様子もあるということで、2006 年には同年予定の ISBC 大会が中止になったこともあり、ISBCJ からの依頼で、「状況偵察」も兼ね、ICSB メルボルン大会に参加したのです。

現地において、ICSB の強力かつ活発な活動、盛大な大会の様子を実感し、この動きに日本の中小企業研究者としてはなんとかついていかねばならないと心新たにしました。以来 7 年、私になしえたことは、日本サイドと ICSB との関係の構築と強化をどのように図るのかということに尽きます。

課題は多々ありました。もちろん最大のものは、ICSB 日本支部がすでに存在しているという事実でした。それが十分に機能活動をしていない、また日本の学界等とのかかわりが弱いという事情は明らかなので、当事者たる ICSB 日本支部の代表の方らとの協議も重ねました。日本との関係を心配する、ICSB 本部のタラビシー事務局長（現専務理事）の助言も頂戴しました。

組織、財政等のハードルを越えて ICSB 日本支部を再構築する方法を模索し、また ICSB と ISBC との関係も横目でにらみながら、いろいろ思慮とさまざまな方々との協議を重ねました。特に、ISBC 国際事務局長も務めてこられた、ISBCJ 理事長の井出亜夫氏には、多くの助言と立場をこえた協力を頂戴できました。

検討と模索、試行錯誤の一方で、毎年開かれる ICSB 世界大会にも、私自身 2009 年ソウル、2011 年ス

ストックホルムとそれぞれ参加し、世界の動きを横目でにらみながら、日本の検討状況や今後なし得る対応など、ICSB サイドとも率直に話し合ってきました。このうち、2011年ストックホルム大会には ISBC が相乗りし、私は ISBCJ からの派遣としての参加であり、また 2008 年の ISBE 英国中小企業研究学会ベルファスト大会にも参りましたが、これにも ISBC が相乗りをする一方、ECSB 欧州協議会を通じて関係の深い ICSB サイドからの参加もありました。もちろん、2009 年 ICSB ソウル大会は今回の ACSB 大会にそのままつながるものでもあり、韓国実行委員会の大変な力の入れように圧倒される思いとともに、韓国学会の方々との交流と友情を通じ、なんとしても ICSB と日本の関係を再構築せねばという決意を新たにさせられるものでもありました。また、一年前には KASBS の招待で学会大会に参加でき、その席で ACSB 設立の構想も提起されました。こうした意味からも、今回の ACSB 大会の成功にわずかなりとも貢献でき、韓国の友たちに恩返しができる思いもあります。

最終的には、日本学術振興会産業構造・中小企業第 118 委員会の港徹雄委員長の決断を頂くことができ、同委員会を組織上財政上の基盤として、ICSB 日本支部を再建するという方針が固まり、諸方面の理解を頂くことができました。私自身が ICSBJ の議長職を引き受けることにもなり、ちょっとややこしくもなりましたが、井出氏のご助言である、「ISBC は政府や実業界レベルの交流中心、ICSB の方は研究者中心で棲み分けていったら」というお考えをもとに、それぞれを支えていくという選択肢になった次第です。井出氏には JICSB の役員もお引き受け頂きました。そのようなことで、2012 年前半に組織固めをし、同年 6 月の ICSB ウェリントン大会の理事会に飛び、JICSB の日本支部としての再建再開を全会一致で認めて頂くことができたのです。

以来一年半、JICSB の活動自体はまだまだ緒に就いたばかりです。ICSB との連携、情報提供、機関誌 JSBM 配付などを別とし、毎夏に学振第 118 委員会との「共催」というかたちでの「ワークショップ」開催のほか、目立った事業活動を組織的に行っているわけではありません。今年の ICSB プエルトリコ大会には、加藤副委員長が参加され、前記のように ACSB 設立に貢献助言されたほか、遠地ということもあり、日本からの参加者は山本聡会員のみでした。情報提供の活発化とともに、会員拡大につとめることはきわめて重要です。

来年の ICSB 世界大会は 6 月 11～14 日に、アイルランドダブリンで開催が予定されています。ACSB の方は、第二回大会開催候補に台湾、マレーシアの名が上がりましたが、まだ未定です。いずれにせよ、日本からの参加と貢献はいつそう重要なものとなりましょう。

JICSB 委員長 三井逸友

★委員長挨拶の全文は以下を参照下さい。

<http://www2.odn.ne.jp/mitsui05/imitsui/ACSB2013.html>

■2. ACSB カンファランス



ACSB 第1回カンファランスが2013年10月31日から11月1日まで韓国ソウル市において開催され、JICSBより三井逸友委員長をはじめ7名が参加した。

★ACSB2013 ソウル 訪問記 は以下を参照下さい。

<https://www.dropbox.com/s/2peun66t5df8yvo/ACSB2103SEOULKOREA-SY.pdf>

(1) ACSB 理事会 2013年10月31日

- ・次回カンファランスは①台湾での開催を検討する。不可の場合、②マレーシア、③韓国の順で考える。
- ・Vice president

Vice President of Meetings and Conferences として高橋德行理事が、Vice President of Publications として岡室博之副委員長がそれぞれ任命された。

- ・次回理事会は4月7日～9日にシンガポールで開催予定。
- ・他にアジア地区の中小企業政策、教育プログラムなどのプラットフォームとしてACSBがどう貢献すべきか討論された（継続審議）。

(2) ACSB カンファランス

- ・第1日は「Creative Economy

と中小企業」に関するキーノート・スピーチの後、5つの分科会が開催された。分科会における JICSB 会員の報告は6件で、韓国に次ぐ数を占めた。報告者は以下の通り（敬称略）。港徹雄、岡室博之2件、加藤敦、山本聡、河藤佳彦。

- ・第2日目のグローバル・セッション全体会において、三井逸友委員長が「我が国中小企業のグローバル化」について講演した。
- ・第2日に北川慎介中小企業庁長官が「日本の中小企業政策」と題し講演した。

(3) 最優秀論文賞 Best Paper Award

- ・岡室博之副委員長が受賞した。

(4) 韓国中小企業中央会(Korean Federation of Small and Medium Businesses) 創立20周年記念大会

- ・ACSB カンファランスにあわせ2013年10月31日に開催
- ・全国中小企業団体中央会の鶴田欣也会長、及川勝政策推進部長が来賓として参加し、鶴田欣也会長がお祝いを述べた。

(4) その他

- ・プレ行事として2日間にわたり工場見学等ツアーが生まれ、JICSBより3名が参加した。10月29日にサムソン電子本社、起亜自動車工場、POSCO 仁川地区（広報センター・教育センター・鋼材試験センター）を訪問した。10月30日には韓国の先進中小企業（射出成型機開発製造業）の工場見学を行った。

■ 3. Journal of Small Business Management



JSBM 51(4) 2013年10月号がWILEY ONLINE より閲覧できるようになりました。

<http://onlinelibrary.wiley.com>

★Examining the Link Between Entrepreneurial Orientation and Learning Process in Small and Medium Enterprises.

Brettel, M and J.D. Rottenbergr,

企業における起業家的志向 (Entrepreneurial Orientation, EO) の強さが、個人レベル、チームレベル並びに組織レベルのラーニングに影響を与えるかについて、ドイツ中小企業を対象とした実証研究。

★Linking Entrepreneurial Orientation and Firm Performance: The Role of Organizational Learning Capability and Innovation Performance.

Alegre, J. and R. Chiva

企業における起業家的志向 (EO) が企業革新パフォーマンス (Innovation Performance, IP)、企業業績 (Firm Performance, FP) にどのような影響を与えるかについての実証研究。

★How On-the-Job Embeddedness Influence New Venture Creation and Growth.

Mi, Y. and Y. Zheng

就業を通じた社会的埋め込み (On-the-Job Embeddedness) が起業家の財務資本 (Financial Capital)、人的資本 (Human Capital)、社会資本 (Social Capital) を高めるとの理論にもとづく、創業期の企業を対象とした実証研究。

★Who Do Start-Up Firms Imitate ? A Study of New Market Entries in the CLEC Industry.

Gentry, R., Dalziel, T. and M. Jamison

米国の新興電気通信産業 (CLEC) を対象とした、市場開拓に関する起業家の模倣に関する実証研究。

★From Resource Access to Use : Exploring the Impact of Resource Combinations on Nascent Entrepreneurship.

Klyver, K. and M. Schenkel

財務資本、人的資本、社会資本の蓄積度によりベンチャーを起業するか否かが左右されるという資本理論 (Capital theory) にもとづく実証研究。

★Intangible Resource and Plural Form as Drivers of Franchise Internationalization: Examination within a Two-Country Perspective.

Perrigot, R. Lopez-fernandez, B. and S. Eroglu

米仏のフランチャイズチェーン 853 を対象として、ブランド力をはじめモニタリング力や知識移転力な

どの無形資産 (Intangible Asset) が、フランチャイズ/直営店併設率(Plural Form)とともに、チェーンの国際化にどう影響を与えているかを明らかにした実証研究。

★An Investigation of Spanish SME Innovation during Different Economic Conditions.

Madrid-Guijarro, A. et al.

スペイン中小企業 287 社 (2005 年)、429 社 (2009 年) の経済活動に関する実証研究。

★Current Marketing Practice and Market Orientation in the Context of an Emerging Economy: The Case of Uruguay.

Lado, N. et al.

不況後のウルグアイ中小企業 143 社を対象とした実証研究。

★The Influence of IT Management Sophistication and IT Success in Small and Medium Sized Enterprises.

Cragg, P., Mills, A. and T. Suraweera

ニュージーランドの公認会計士事務所 297 を対象とした中小企業の IT 活用に関する実証研究。組織的 IT マネジメント力が企業内部の IT 部門要員並びに企業外部の IT アウトソース要員によりどう補強されるか、等を検討した。

■ 編集後記



今回より山本聡会員 (東京経済大学) が事務局に参加します。
よろしくお願いたします。

発行者 JICSB 事務局

加藤敦 (同志社女子大学) kato@jicsb.org

山本聡 (東京経済大学) yamamoto@tku.ac.jp